

## 5 管理データ様式

## 5 管理データ様式

受注者は、施工管理（出来形管理・品質管理）の結果を、本様式を用いて提出しなければならない。なお、本記載様式に代えて、受注者・製造会社等が独自に作成した様式や土木学会等制定の一般市販品の様式を用いることも可能であるが、この場合、第2編森林土木工事施工管理基準に示すデータが記録可能であることを受注者自らが確認するものとする。また、本記載様式に示されていない場合についても、同様とする。

### 様式－1

(施工管理総括表の表紙記入例)  
A-4版(210×297)

8mm		主任監督員	監督員
12mm			
	15mm	22.5mm	22.5mm

(施工年度)

(路線名・河川名)

(工事名)                      ○○工事

(施工管理の種別)        でき形測定    総括表  
                                 品質管理

(施工者)                      受注者名

(現場代理人)              氏 名 ㊟

(主任技術者  
又は監理技術者)        氏 名 ㊟

(測定者)                      氏 名 ㊟                      氏 名 ㊟

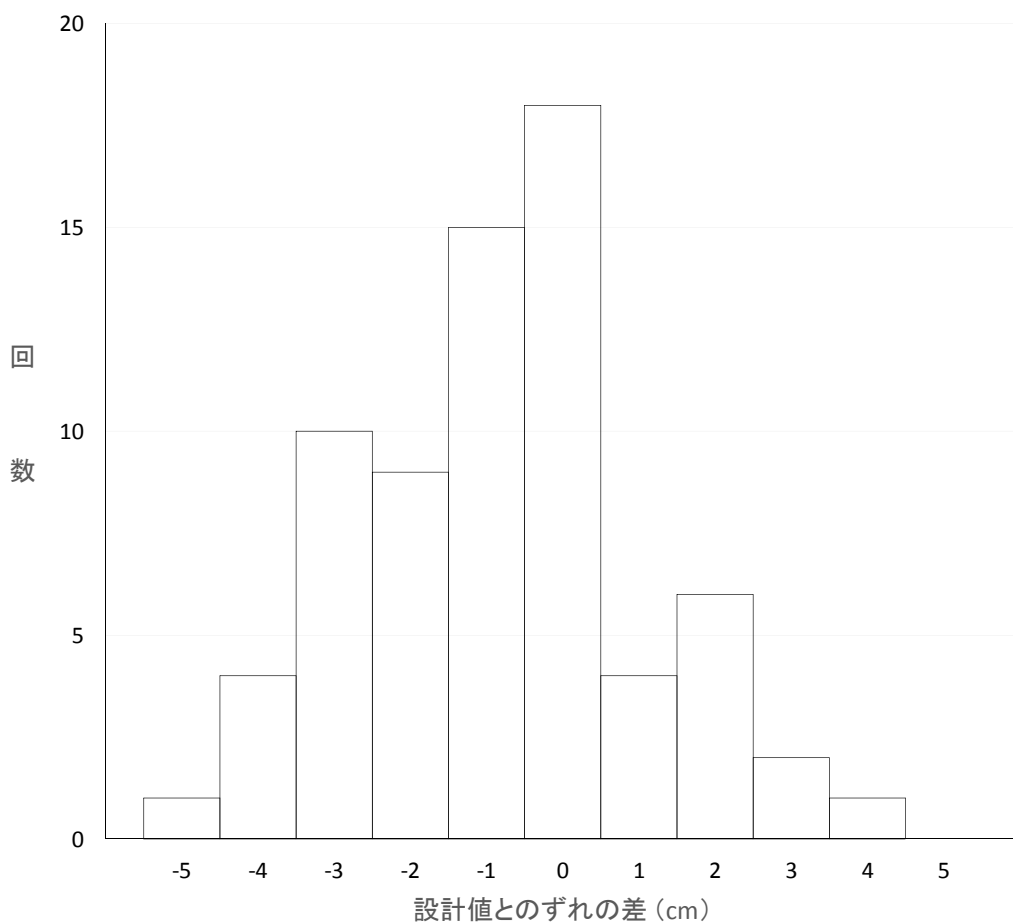


でき形測定取まとめ図(取まとめ例)

[記入要領]

- イ 路床・路盤・舗装体各層の設計値と測定値のずれの差を記入する。
- ロ この図は、請負者測定の最終結果を整理したもののみを記入する。
- ハ 図の下には、算術平均値を記入する。

工種名	細粒度アス・コン工	高さの出来形測定
-----	-----------	----------



測定数 71  
 差  $\left. \begin{matrix} -85 \\ +26 \end{matrix} \right\} -59 \therefore \text{ずれの差の平均} = \frac{-59}{71} = -0.83\text{cm}$

様式-4

	<b>舗装路面の平坦性測定</b>	試験 用紙 報告
調査・工事名 _____	測定年月日 _____ 年 月 日	
測定開始点 _____	測定機の種類 <input type="checkbox"/> 3mプロフィールメータ	
測定終了点 _____	<input type="checkbox"/> 3m直線定規	
測定距離 _____	測定者 _____	
シート番号 _____		

No.	d	No.	d	No.	d	No.	d	No.	d
1		21		41		61		81	
2		22		42		62		82	
3		23		43		63		83	
4		24		44		64		84	
5		25		45		65		85	
6		26		46		66		86	
7		27		47		67		87	
8		28		48		68		88	
9		29		49		69		89	
10		30		50		70		90	
11		31		51		71		91	
12		32		52		72		92	
13		33		53		73		93	
14		34		54		74		94	
15		35		55		75		95	
16		36		56		76		96	
17		37		57		77		97	
18		38		58		78		98	
19		39		59		79		99	
20		40		60		80		100	

①	Σ d (mm)	*	②	Σ d <sup>2</sup> (mm <sup>2</sup> )	*
③	データ数	*	標準偏差 $\sqrt{((2)-①^2/(3))/((3)-1)}$ (mm)		*

備考

注) \*印の欄は、最後のデータシートのみ記述する。

### 土質試験結果一覧表

工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試料土 No.									
試料土の深さ	地表面から								
	基準面から								
試料土採取年月日									
試料土採取時の天候									
土粒子の密度									
粒 度	最大径								
	2.0mmふるい通過率 %								
	425 μ " %								
	75 μ " %								
コ テ ン シ ス イ	液性限界 %								
	塑性限界 %								
	塑性指数								
分 類	統一分類法								
	日本統一分類法								
	見かけ								
自 締 固 土 め と 土	現場含水比 %								
	現場乾燥密度 g/cm <sup>3</sup>								
	最適含水比 %								
	最大乾燥密度 g/cm <sup>3</sup>								
円 錐 貫 入 試 験 ( コ ー ン 指 数 )	地山	(N=0)							
	室内	N=20							
		N=40							
		N=80							
		N=120							
ボーリング柱状及び中心線に沿う土層断面図									

備考

注) 備考欄には試験機関名その他の試験結果等を記入すること。

## 土 凍上抑制層の突固め試験

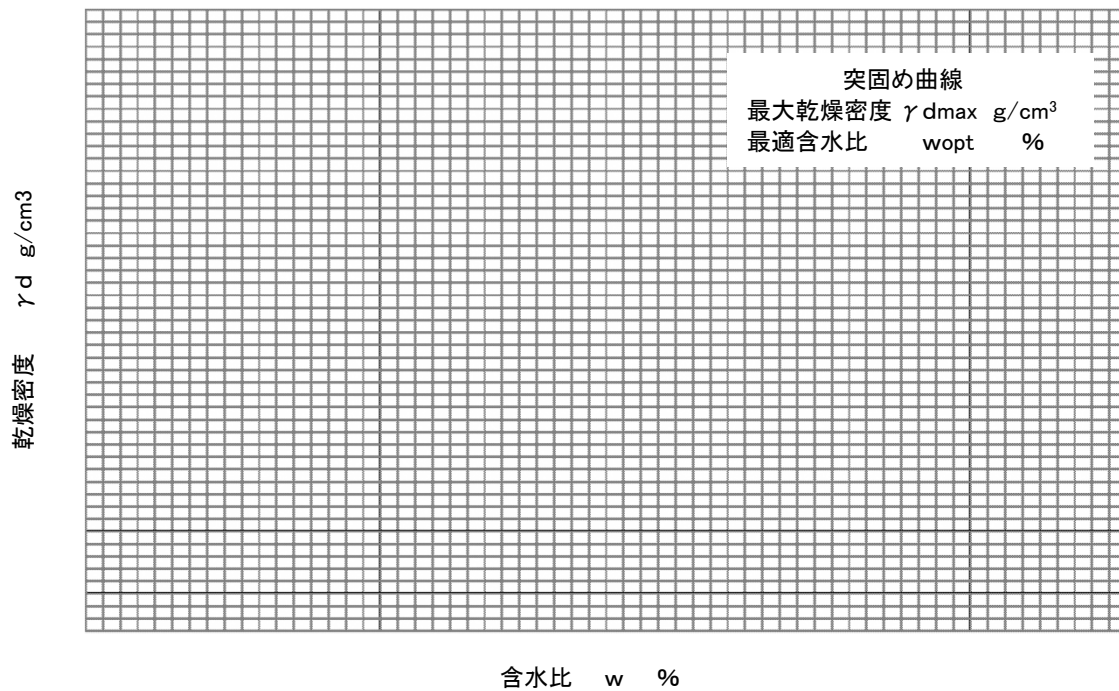
試料採取地名 \_\_\_\_\_

試料番号 \_\_\_\_\_

測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試験目的：普通締固め・CBR締固め      乾燥処理前含水比：.....%      乾燥処理前含水比：.....%  
 試験方法の呼び名：試験方法.....      試験開始前含水比：.....%      土粒子の密度：.....  
 突き固め方法：      試験の使用別：繰返し法・非繰返し法  
 モールド内径：10cm・15cm.....cm      試験の準備法：乾燥法・湿潤法  
 試料許容最大粒径      mm      許容最大粒径以上の粗粒分の乾燥重量百分率.....%

測定番号	1	2	3	4	5	6	7	8
乾燥密度 $\gamma_d$ g/cm <sup>3</sup>								
平均含水比 w %								



備考 \* その他突固め方法：ランマー重量.....kg      落下高.....cm      突固め回数.....回/層(.....層)  
 \*\* 湿潤法を用いた場合

注 砂 法	現場における土の単位体積重量試験(砂置換法)	報告用紙
-------	------------------------	------

調査名・調査地点  
 測点番号・深さ:No. (m)  
 試験年月日 年 月 日  
 天 候  
 所 属  
 試 験 者

試験用の砂の検定	検 定 マ ス の 深 さ	H						
	測 定 器 番 号	No.						
	測定器及び投入した砂重量 (一定重量)	W1	g					
	測 定 器 重 量	W2	"					
	投 入 砂 重 量	Wa=W1-W2	"					
	検定容器および砂重量	W3	"					
	検 定 容 器 重 量	W4	"					
	検 定 容 器 内 砂 重 量	Wb=W3-W4	"					
	測定器および残砂重量	W5	"					
	測 定 器 内 残 砂 重 量	Wc=W5-W2	"					
	検 定 容 器 の 体 積	Vc=206xH	cm <sup>3</sup>					
	試験砂の単位体積重量	$\gamma_s = \frac{Wb}{Wc}$	g/cm <sup>3</sup>					
	平 均 値	$\gamma_s$	"					
	ベースフレード及び漏斗を 満たす砂重量	Wf=Wa-Wb-Wc	g					
平 均 値	Wf	"						

土の単位体積重量測定	試 験 孔 番 号	No.					
	土 質 名						
	土 の 最 大 粒 径	Dmax	cm				
	容 器 番 号	No.					
	(湿潤土+容器)の重量	W6	g				
	容 器 の 重 量	W7	"				
	湿 潤 土 の 重 量	Wd=W6-W7	"				
	測定器および投入砂重量	W8(W1)	"				
	測定器および残砂重量	W9	"				
	試験孔にはいった砂の重量	W <sub>10</sub> =W8-W9-Wf	"				
	試 験 孔 の 体 積	V=W <sub>10</sub> / $\gamma_s$	cm <sup>3</sup>				
	土の湿潤単位体積重量	$\gamma_t = \frac{Wd}{V}$	g/cm <sup>3</sup>				
	土の乾燥単位体積重量	$\gamma_d = \frac{100\gamma_t}{100+W}$					

備 考

土の最大 粒 径	含水量試験 試料最小量	粒度試験 最 小 量
0.5mm	100g	250g
1.25	200g	625g
2.5	500g	2,000g
5.0	1,000g	4,000g

No.	No.	No.	No.
Wa Wb	Wa Wb	Wa Wb	Wa Wb
Wb Wc	Wb Wc	Wb Wc	Wb Wc
Ww Ws	Ww Ws	Ww Ws	Ww Ws
w = %	w = %	w = %	w = %
No.	No.	No.	No.
Wa Wb	Wa Wb	Wa Wb	Wa Wb
Wb Wc	Wb Wc	Wb Wc	Wb Wc
Ww Ws	Ww Ws	Ww Ws	Ww Ws
w = %	w = %	w = %	w = %
平均含水比 W = %	平均含水比 W = %	平均含水比 W = %	平均含水比 W = %





材 料 名	産 地	納 入 会 社

凍上抑制層  
路盤工

凍上抑制層  
材料試験成績一覧表

凍上抑制層材料

(火山灰)

75 μm 通過量	(%)
強熱減量	(%)
凍上率	(%)
凍結様式	

下層路盤材料

(切込砂利・切込碎石)

修正 C B R	R	(%)
すりへり量	量	(%)
安定性	性	(%)
75 μm 通過量	通過量	(%)

加熱アスファルト安定処理材料

(切込砂利・切込碎石)

比重	重	
すりへり量	量	(%)
安定性	性	(%)

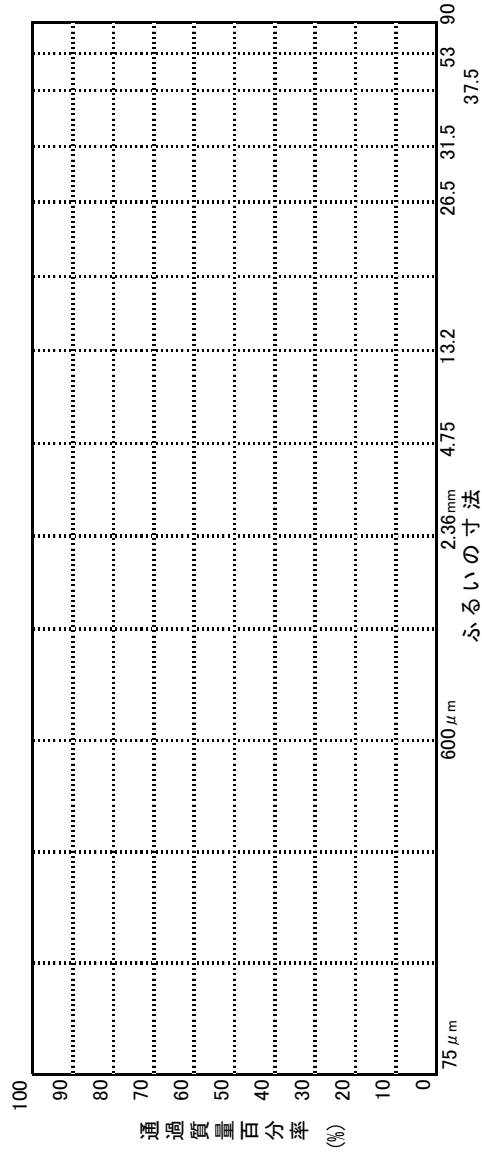
75 μm 通過量	(%)
(切込砂利・切込碎石)	
75 μm 通過量	(%)

ふるい目	ふるい通過質量百分率(%)
53mm	37.5mm   13.2mm   2.36mm   600 μm
呼び名	

ふるい目	ふるい通過質量百分率(%)
37.5mm	31.5mm   26.5mm   13.2mm   2.36mm   75 μm
呼び名	

ふるい目	ふるい通過質量百分率(%)
90mm	53mm   37.5mm   4.75mm
呼び名	

75 μm 通過量 ~ 4.75mm 以下の質量に対する 75 μm 以下の  
質量の割合



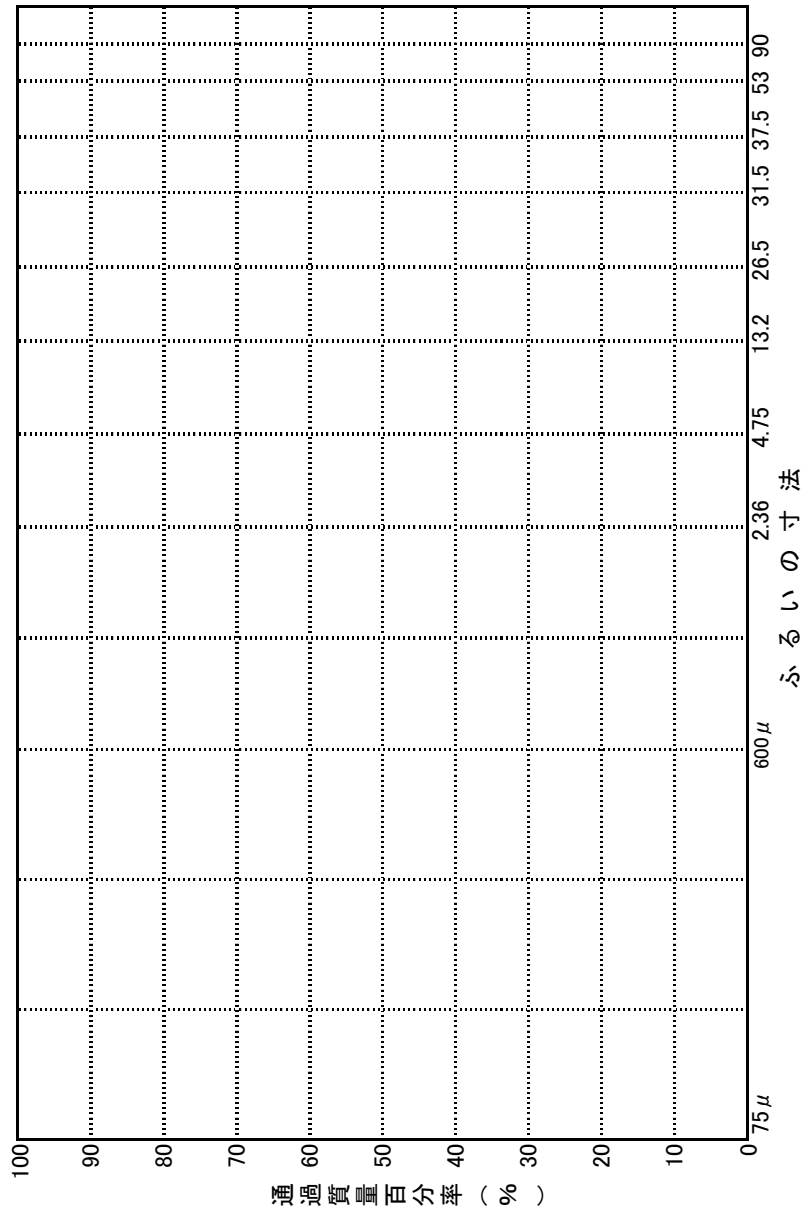
備 考

注) イ. 産地及び材料ごとに記入すること。 ロ. 仕様書の粒度範囲も記入すること。 ハ. 記事欄には試験機関名その他の結果を記入すること。

凍上抑制層  
下層路盤  
材料のふるい分け試験一覧表

測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

材料名 \_\_\_\_\_



備考

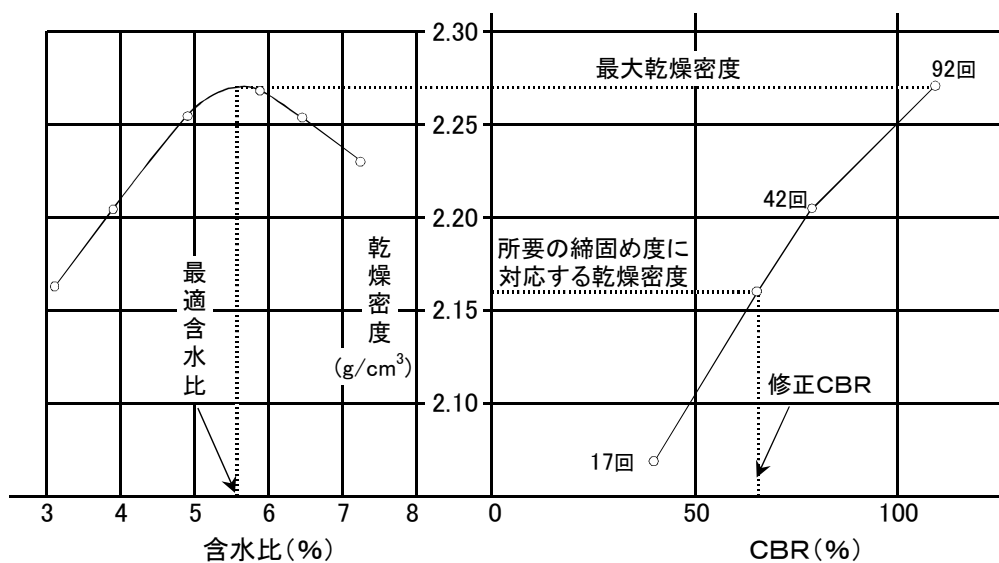
注) 仕様書の粒度範囲を記入すること。

## 路盤材料の突固め及び修正CBR試験成績表

測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

材 料 名	産 地	納 入 会 社

乾燥密度・含水比・CBR関係図



最適含水比 (%)	5.6
最大乾燥密度 (g/cm³)	2.27
締固め度 (%)	95
修正CBR (%)	66

**記 事**

試 験 目 的 :	CBR締固め	
試験方法の呼び名 :	試験方法	アスファルト舗装要綱
突 固 め 方 法 :	第2方法	試料の使用別 : 非繰返し法
モ ー ル ド 内 径 :	15cm	試料の準備法 : 乾燥法
試料許容最大粒径 :	38.1mm	

測 定 番 号	1	2	3	4	5	6	7	8
乾燥密度 $\gamma_d$ (g/cm³)	2.17	2.21	2.25	2.27	2.25	2.23		
平均含水比 $\omega$ (%)	3.2	4.0	4.7	6.0	6.6	7.4		

(注) 記事欄には、試験機関名その他を記入すること。

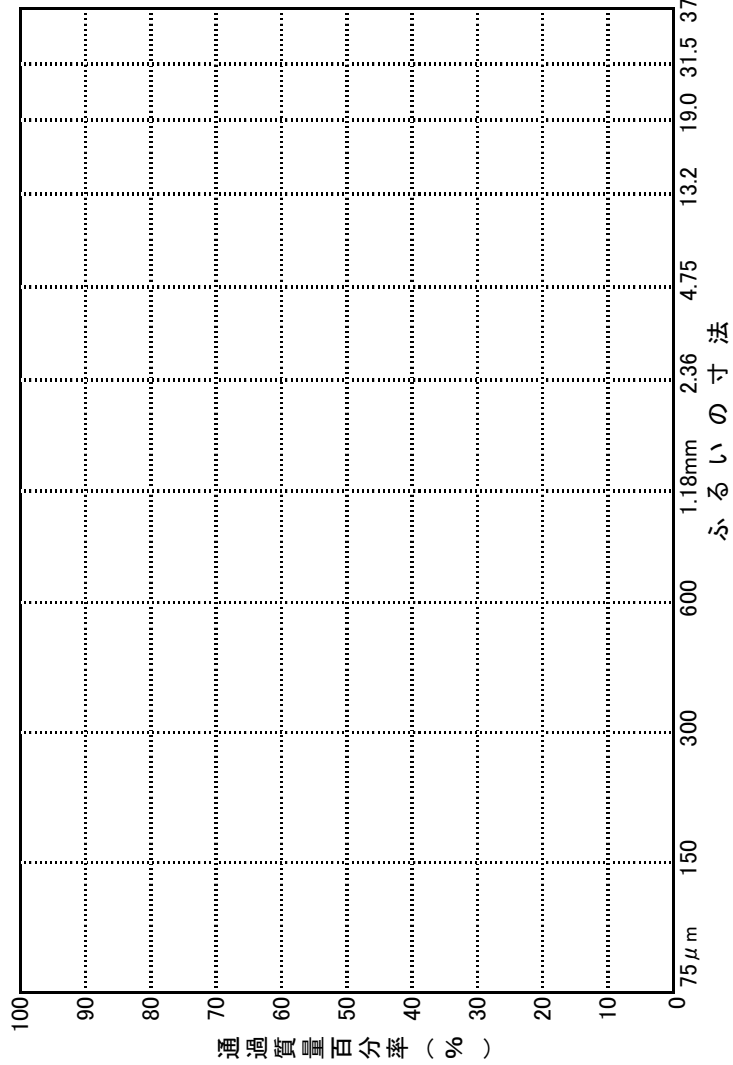


### 基層工の骨材試験成績一覧表

材 料 名	産 地	納 入 会 社

測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

アスファルト舗装用材料  
砕石・砂利



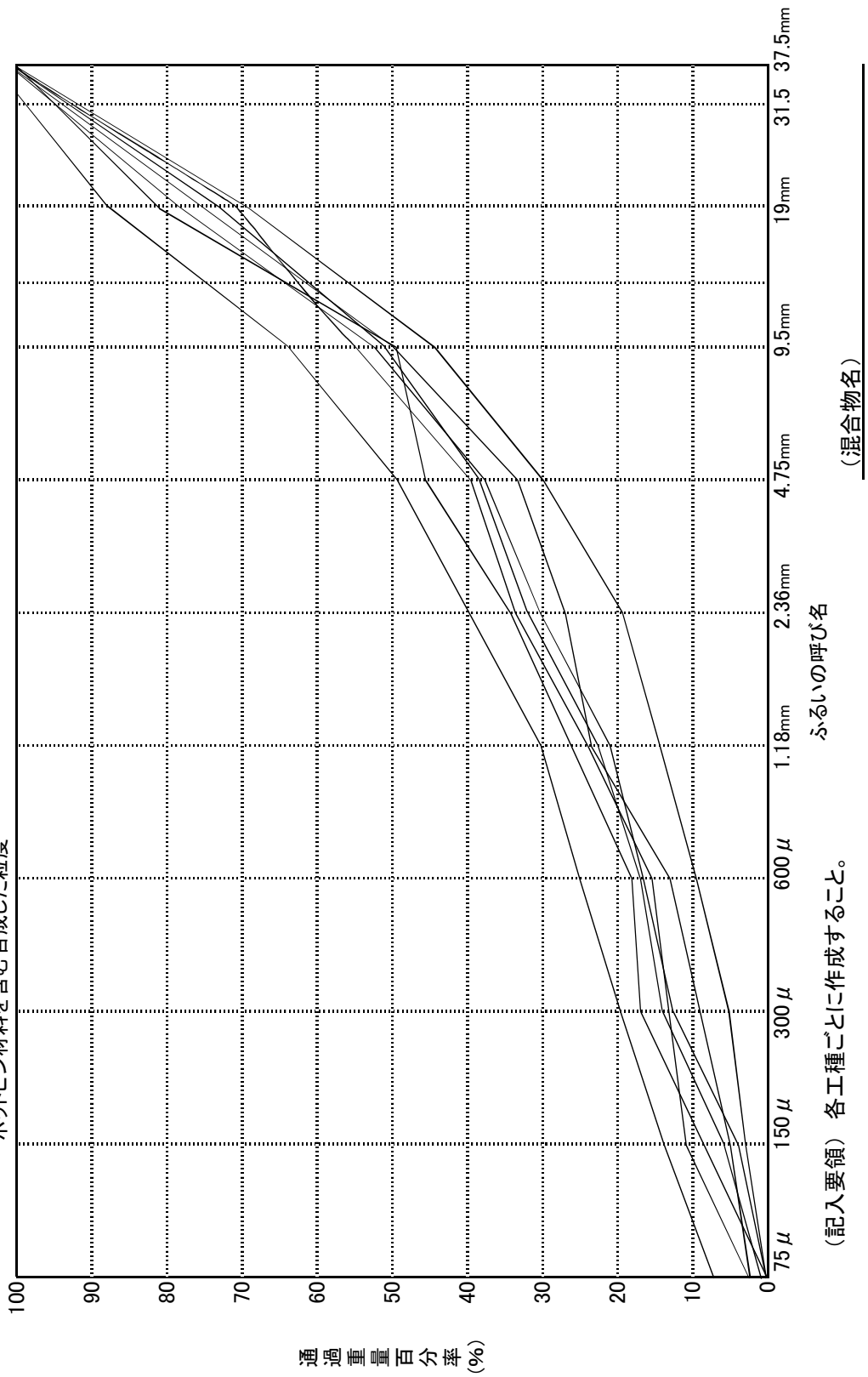
粗骨材	比 重	
	吸 水 量	(%)
	す り へ り 量	(%)
	安 定 性	(%)

細骨材	比 重	
	吸 水 量	(%)
	安 定 性	(%)

備 考

注)イ. 産地及び材料ごとに記入すること。 ロ. 備考欄には試験機関名その他の試験結果を記入すること。

ふるい分け試験取まとめ図(記載例)  
 ホットビン材料を含む合成した粒度









### 計量自記記録合格判定値

1. プラント			
2. 合 材 の 種 類	細粒ギャップ・アスコン		
3. 1バッチ当計量値	800	kg	
4. 適 用 粒 度	1・②		

※実施配合比及び配合値

骨材累積最終ビン	2.5mm直近ホットビン	石 粉	アスファルト
81.7%	38.4%	11.5%	6.8%
653.6kg	307.2kg	92.0kg	54.4kg

※合格判定値 I、II

項目	判 定 項 目	合格判定値 I (kg)	合格判定値 II (%)
粒 度	骨材累積最終ビン	653.6 (±39.2)	—
		614.4~692.8	
度	2.5mm直近ホットビン	307.2 (±48.9)	53.0 (±11.0)
		258.3~356.1	42.0~64.0
石 粉	石 粉	92.0 ( $\begin{matrix} +19.9 \\ -13.8 \end{matrix}$ )	11.5 ( $\begin{matrix} +3.4 \\ -2.3 \end{matrix}$ )
		78.2~111.9	9.2~14.9
ア ル ス フ ア ト	ア ス フ ァ ル ト	54.4 (±3.5)	6.8 (±0.8)
		50.9~57.9	6.0~7.6

上段・実施配合値(比)及び許容範囲  
下段・計量値(比)許容範囲

### 計量自記記録値判定成果

1. 合材の種類	細粒	ギャップ・アスコン	Nc
2. 施工年月日			
3. 記録バッチ数	589	無効バッチ数	4 有効バッチ数 585
4. 合材出荷t数	467.835		

※各グループ別成果(第1次合格判定)

グループ No.	有効 バッチ数	範囲にはずれる個数				備考
		A	B	C	D	
		骨材累積 最終ピン	2.5mm直近 ホットピン	石粉	アスファ ルト	
1	1~100	0	0	0	0	
2	101~200	0	0	1	0	
3	201~300	0	2	4	1	
4	301~400	0	0	1	0	
5	401~500	0	2	6	1	不合格→2次合格判定 舗設測定000~000
6	501 ~ 585 600	0	0	0	0	
7	601~700					
8	701~800					

※第2次合格判定

グループNo.5のC.....407.408.452.466.489.494

---



---



---



---



---

様式-19

コンクリート管理試験日報														
供採 試取 体日	年 月 日			天 候	気 温	最高 最低	℃		測定者 _____ 印 _____					
示 方 配 合	セメント (kg)	粗骨材 (kg)	砂 (kg)	混和剤	水 (ℓ)	現 場 配 合	セメ ント (kg)	粗骨 材 (kg)	細骨 材 (kg)	混和 剤	水 (ℓ)	粗細 骨材 の調 節	粗細骨材 による 量の調節	表面水量 による 調節
構 造 物	打設 位置	配合 種別	設計コンク リート量 (m <sup>3</sup> )	コンクリート打設量			コンクリー ト温 度 (℃)	スラン プ (cm)	空気量 (%)	供試体採取数		備 考		
				パッチ数	m <sup>3</sup>					7日	28日			
供 試 体 記号・番号	配合種別	養生方法	試験材令 (日)	供試体重量 (kg)	最大荷重 (KN)	圧縮強度(N/mm <sup>2</sup> )		備 考						
						各 個	平 均							
備 考														

注)レディミクストコンクリートについては、現場配合の欄を省略することができる。

## 空気量、スランプ等の取りまとめ図

測定者 \_\_\_\_\_

印 \_\_\_\_\_

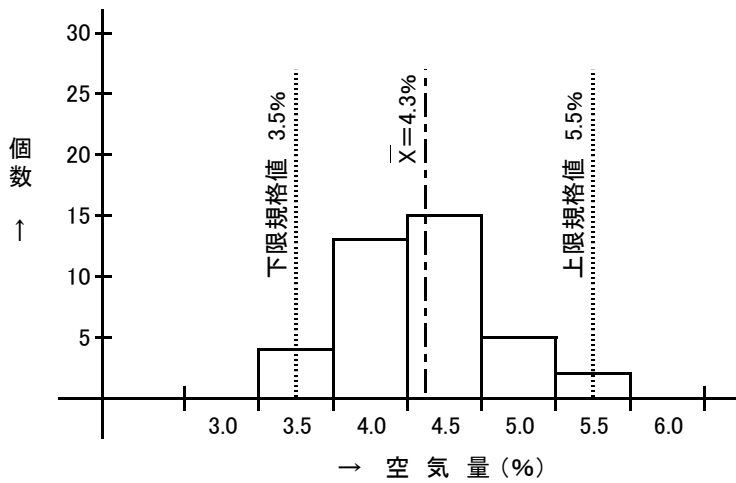
配合種別 \_\_\_\_\_

### I. 空気量の測定

空気量(4.5%)の場合  
規格値(±1.0cm)

n = 39

$$\bar{X} = \frac{3.5 \times 4 + 4.0 \times 13 + 4.5 \times 15 + 5.0 \times 5 + 5.5 \times 2}{39} = 4.3\%$$

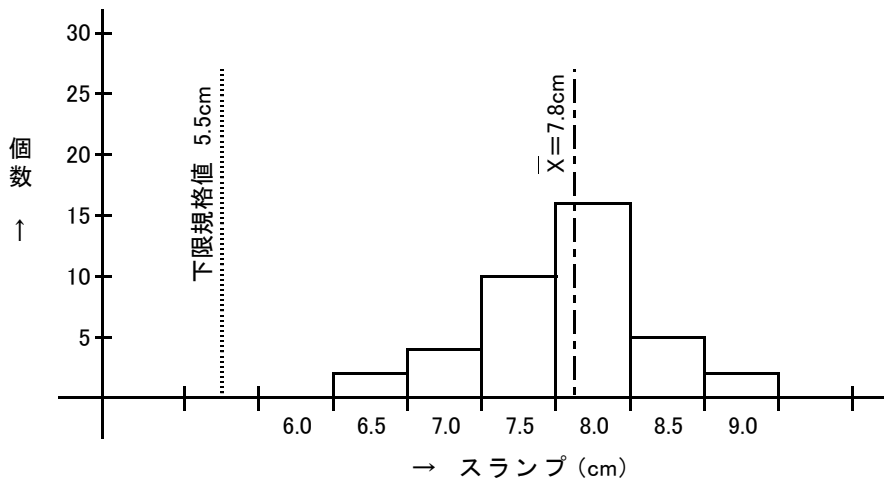


### II. スランプの測定

スランプ(8cm)の場合  
規格値(±2.5cm)

n = 39

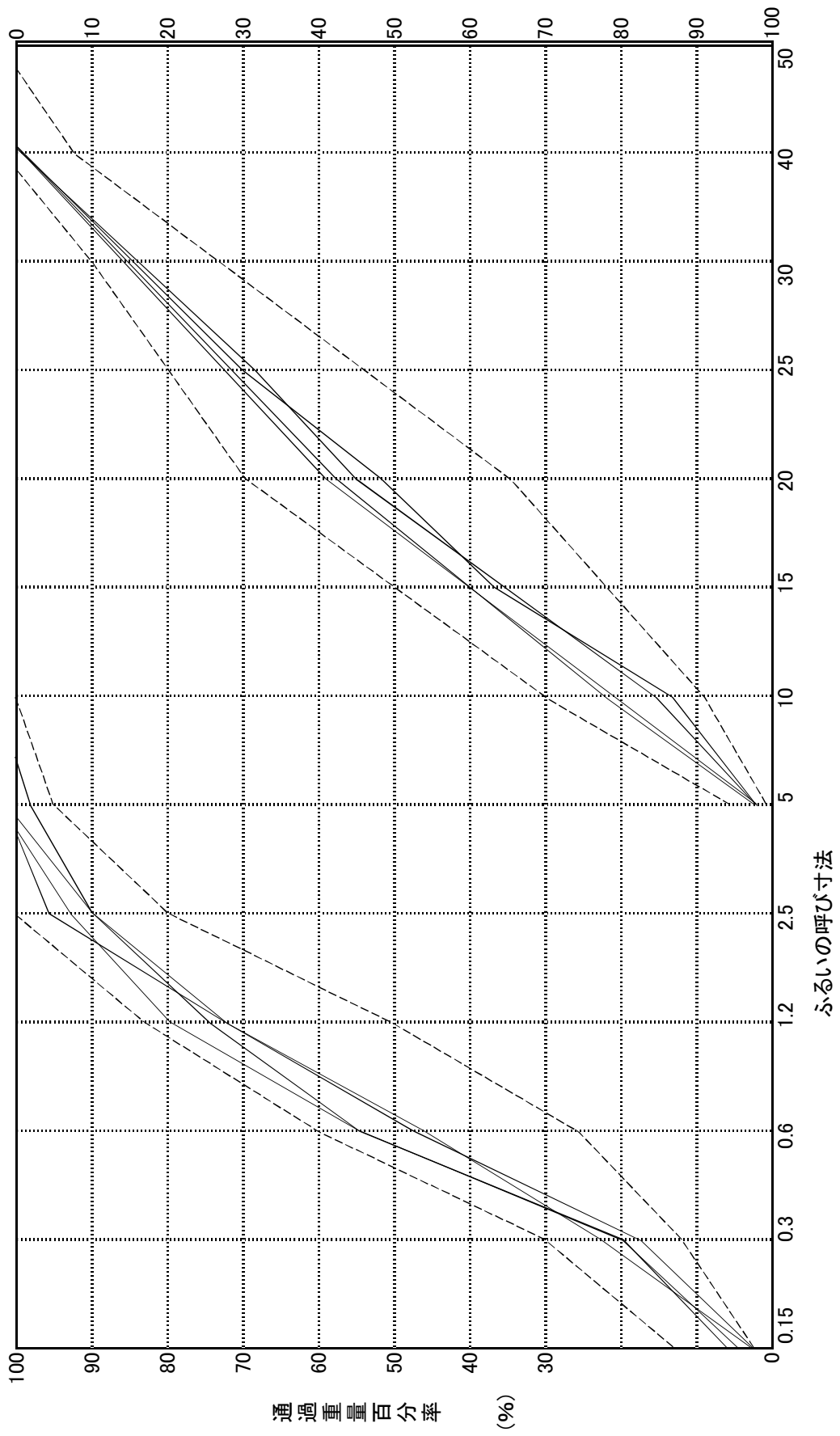
$$\bar{X} = \frac{6.5 \times 2 + 7 \times 4 + 7.5 \times 10 + 8 \times 16 + 8.5 \times 5 + 9 \times 2}{39} = 7.8\text{cm}$$





様式一22

コンクリート骨材ふるい分け試験取まとめ図(記載例)



## コンクリート品質検査報告書

測定者

印

配合種別(記号) \_\_\_\_\_

呼び強度 \_\_\_\_\_ N/mm<sup>2</sup>

※納入生コン工場 \_\_\_\_\_

構造物	打設位置	供試体		最大荷重 (KN)	圧縮強度(N/mm <sup>2</sup> )			供試体採取 作業所名	試験 年月日	備考
		試験回数	番号		各個	平均	3回の 平均			

※試験回数 \_\_\_\_\_ の圧縮強度試験結果は当作業所に打設のものであることを証明します。

年 月 日

作業所名 \_\_\_\_\_

責任者 \_\_\_\_\_ 印

※試験回数 \_\_\_\_\_ の圧縮強度試験結果は当作業所で施工のものであることを証明します。

年 月 日

作業所名 \_\_\_\_\_

責任者 \_\_\_\_\_ 印

※ 生コン使用の場合記入する。これに代わる証明書でもよい。





様式-25

レディーミクストコンクリート配合計画書										No. _____	
様										年 月 日	
製造会社名・工事名											
配合計画者名											
工事名称											
所在地											
納入予定時期											
本配合の適用期間 a)											
コンクリートの打込み箇所											
配合の設計条件											
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー cm		粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号					
指定事項	セメントの種類	呼び方欄に記載		空気量				%			
	骨材の種類	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量				kg/m <sup>3</sup>			
	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載		コンクリートの温度				最高・最低 °C			
	アルカリシリカ反応抑制対策の方法 b)			水セメント比の目標値の上限				%			
	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載		単位水量の目標値の上限				kg/m <sup>3</sup>			
	水の区分	使用材料欄に記載		単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限				kg/m <sup>3</sup>			
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合欄に記載		流動化後のスランプ増大量				cm			
	塩化物含有量	kg/m <sup>3</sup> 以下									
	呼び強度を保証する材齢			日							
使用材料 c)											
セメント	生産者名				密度 g/cm <sup>3</sup>		Na <sub>2</sub> Oeq <sup>d)</sup> %				
混和材	製品名		種類		密度 g/cm <sup>3</sup>		Na <sub>2</sub> Oeq <sup>e)</sup> %				
骨材	No	種類	産地又は品名	アルカリシリカ反応性による区分 f)		粒の大きさの範囲 g)	粗粒率又は実積率 h)	密度 g/cm <sup>3</sup>		微粒分量の範囲 i) %	
				区分	試験方法			絶乾	表乾		
細骨材	①										
	②										
	③										
粗骨材	①										
	②										
	③										
混和剤①	製品名				種類			Na <sub>2</sub> Oeq <sup>j)</sup> %			
混和剤②											
細骨材の塩化物量 <sup>k)</sup>				水の区分 <sup>l)</sup>			目標スラッジ固形分立 <sup>m)</sup>		%		
配合表 <sup>n)</sup> kg/m <sup>3</sup>											
セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②	
水セメント比		%		水結合材比 <sup>o)</sup>		%		細骨材率		%	
備考	骨材の質量配合割合 <sup>p)</sup> 、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。										

様式-25

アルカリ総量の計算表 <sup>a)</sup>			
アルカリ総量の計算		判定基準	計算及び判定
コンクリート中のセメントに含まれる全アルカリ量 (kg/m <sup>3</sup> ) R <sub>c</sub> R <sub>c</sub> = (単位セメント量kg/m <sup>3</sup> ) × (セメント中の全アルカリ量Na <sub>2</sub> O <sub>eq</sub> : %/100)	①= R <sub>c</sub>	—	
コンクリート中の混和材に含まれる全アルカリ量 (kg/m <sup>3</sup> ) R <sub>a</sub> R <sub>a</sub> = (単位混和材量kg/m <sup>3</sup> ) × (混和材中の全アルカリ量 : %/100)	②= R <sub>a</sub>	—	
コンクリート中の骨材に含まれる全アルカリ量 (kg/m <sup>3</sup> ) R <sub>s</sub> R <sub>s</sub> = (単位骨材量kg/m <sup>3</sup> ) × 0.53 × (骨材中のNaClの量 : %/100)	③= R <sub>s</sub>	—	
コンクリート中の混和剤に含まれる全アルカリ量 (kg/m <sup>3</sup> ) R <sub>m</sub> R <sub>m</sub> = (単位混和剤量kg/m <sup>3</sup> ) × (混和剤中の全アルカリ量 : %/100)	④= R <sub>m</sub>	—	
流動化剤を添加する場合は、コンクリート中の流動化剤に含まれる全アルカリ量(kg/m <sup>3</sup> ) R <sub>p</sub> <sup>f)</sup> R <sub>p</sub> = (単位流動化剤量kg/m <sup>3</sup> ) × (流動化剤中の全アルカリ量 : %/100)	⑤= R <sub>p</sub>	—	
コンクリート中のアルカリ総量 (kg/m <sup>3</sup> ) R <sub>t</sub> R <sub>t</sub> = ①+②+③+④+⑤	R <sub>t</sub>	3.0 kg/m <sup>3</sup> 以下	適・否

- 注 a) 本配合の適用期間に加え、標準配合、又は修正標準配合の別を記入する。  
 なお、標準配合とは、レディーミクストコンクリート工場で社内標準を基本にしている配合で、標準状態の運搬時間における標準期の配合として標準化されているものとする。また、修正標準配合とは、出荷時のコンクリート温度が標準配合で想定した温度より大幅に相違する場合、運搬時間が標準状態から大幅に変化する場合、若しくは、骨材の品質が所定の範囲を超えて変動する場合に修正を行ったものとする。
- b) JIS A 5308 附属書B 表B.1の記号欄の記載事項を、そのまま記入する。
- c) 配合設計に用いた材料について記入する。
- d) ポルトランドセメント及び普通エコセメントを使用した場合に記入する。JIS R 5210の全アルカリの値としては、直近の6か月間の試験成績表に示されている、全アルカリの最大値の最も大きい値を記入する。
- e) 最新版の混和材試験成績表の値を記入する。
- f) アルカリシリカ反応による区分、及び判定に用いた試験方法を記入する。
- g) 細骨材に対しては、砕砂、スラグ骨材、人工軽量骨材、及び再生細骨材Hでは粒の大きさの範囲を記入する。  
 粗骨材に対しては、砕石、スラグ骨材、人工軽量骨材、及び再生粗骨材Hでは粒の大きさの範囲を、砂利では最大寸法を記入する。
- h) 細骨材に対しては粗流率の値を、粗骨材に対しては、実績率又は粗流率の値を記入する。
- i) 砕石及び砕砂を使用する場合に記入する。
- j) 最新版の混和剤試験成績表の値を記入する。
- k) 最新版の骨材試験成績表の値 (NaClとして) を記入する。
- l) 回収水のうちスラッジ水を使用する場合は、“回収水 (スラッジ水)” と記入する。
- m) スラッジ水を使用する場合に記入する。目標スラッジ固形分率とは、3%以下のスラッジ固形分率の限度を保証できるように定めた値である。
- n) 人工軽量骨材の場合は、絶対乾燥状態の質量で、その他の骨材の場合は表面乾燥飽水状態の質量で表す。
- o) 高炉スラグ微粉末などを結合材として使用した場合にだけ記入する。
- p) 全骨材の質量に対する各骨材の計量設定割合をいう。
- q) コンクリート中のアルカリ総量を規制する抑制対策の方法を講じる場合にだけ別表に記入する。
- r) 購入者から通知を受けたアルカリ量を用いて計算をする。

様式-26

レディーミクストコンクリート納品書										No. _____				
様 _____										年 月 日				
_____ 製造会社名・工事名														
納入場所														
運搬車番号														
納入時刻						発			時			分		
						着			時			分		
納入容積						m3		累計		m3				
呼び方		コンクリートの種類による記号		呼び強度		スランプ又はスランプフロー cm		粗骨材の最大寸法 mm		セメントの種類による記号				
配 合 表 a) kg/m3														
セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②				
水セメント比		%		水結合材比 b)		%		細骨材率		%				
備考 配合の種類： <input type="checkbox"/> 標準配合 <input type="checkbox"/> 修正標準配合 <input type="checkbox"/> 計量読取記録から算出した単位量														
<input type="checkbox"/> 計量印字記録から算出した単位量 <input type="checkbox"/> 計量印字記録から自動算出した単位量														
荷受職員認印								出荷係認印						

注記 用紙の大きさは、日本産業規格A列5番(148 mm × 210 mm)又はB列5番(182 mm × 257 mm)とするのが望ましい。

注 a) 標準配合、修正標準配合、計量読取記録から算出した単位量、計量印字記録から算出した単位量、若しくは計量印字記録から自動算出した単位量のいずれかを記載する。また、備考欄の配合種別については、該当する項目にマークを付す。

b) 高炉スラグ微粉末などを結合材として使用した場合にだけ記入する。

注入モルタル プレパックドコンクリート													管理試験日報					
供試体採取年月日	年月日		天候	気温	最高	最低	℃	℃	受注者	測定者								
モルタル配合	水(L)	セメント(kg)	フライアッシュ(kg)	砂(m <sup>3</sup> )	減水剤(kg)	アルミニウム粉末(g)	水セメント比(kg)	水給合材比(%)	摘要									
モルタル配合	水(L)	セメント(kg)	フライアッシュ(kg)	砂(m <sup>3</sup> )	減水剤(kg)	アルミニウム粉末(g)	水セメント比(kg)	水給合材比(%)	摘要									
構造物	打設位置	設計 プレパックド コンクリート 量(m <sup>3</sup> )	モルタル打設量		モルタル 温度 (℃)	フロー値 (秒)	ブリージ ング (%)	膨張率 (%)	供試体採取日									
			パッチ数	m <sup>3</sup>					7日	28日	91日							
供試体記入番号	配合種別	養生方法	供試体重量(kg)	最大荷重(kg)	最大荷重(KN)	圧縮強度(N/mm <sup>2</sup> )		備考										
						各個	平均											
モルタル																		
コンクリート																		
備考																		

## 注入コンクリート報告書

年 月 日

様 工事名

注入箇所		粗骨材 填充月日		填充量	
注 入 時 刻	開 始	前 後	時	分	所 要 時 間
	終 了	前 後	時	分	
注 入 量	バッチ数	総 量	セメント 使用量	時間	
フロー値	1回	2回	3回	4回	5回
注入状況その他(パイプ配置略図等)					
工事監督員				報告者認印	